

第31回 東京ベイお台場クリーンアップ大作戦【お台場海底清掃】 開催報告

期 日： 2026年6月13日（土） 08：00～13：00 過ぎ
場 所： 東京都港区 お台場海浜公園 北口エリア 海浜及び海中
主催者： 東京ベイお台場クリーンアップ大作戦 実行委員会

6月の環境週間に合わせて官民が協力して実施される海浜／海中／海底の清掃活動で、毎年6月9月11月と3回実施されています（今年は9月期は休会）。このうち6月はボランティアのダイバーによる海底清掃を実施しています（9月11月はビーチクリーンのみ）

この海底清掃は31年前、当時のJUDF理事長須賀次郎氏が他の組織にも働きかけ、多くの賛同を得て海上保安庁・東京海上保安部に事務局を置く形で計画・実施されました。大都会東京の海ということで、最初は場所選定にも困りましたが、実際に海保の特殊救難隊とも一緒に潜り検討の結果、場所を現在のお台場海浜公園エリアに設定しました。

第2回より事務局を現在の（公財）港区スポーツふれあい文化健康財団（愛称：Kiss ポート財団：港区外郭団体）へ移管、お台場海浜公園のビーチクリーンの一環として実施しています（今回はKiss ポート財団設立30周年の記念事業とも重なり、取材もありました）

当日は天候に恵まれ、開会式には東京海上保安部次長、財団理事長その他実行委員の皆様、JUDFからは横山副理事長が出席。活動リーダーを努めて頂いた倉田様、ブイや旗・アンカー・ロープ、救助資材等の運搬準備に前日から奔走頂いた水面リーダー担当の田村様、毎回レギュラーの中島様米沢様、久しぶりに行事へ参加頂いたプロ潜水士の野仲様、海外赴任先から一時帰国で参加の小山様ご家族、東京大学海洋調査探検部メンバーも率いて頂いた山縣様等、朝早くまた暑い中多くのメンバーの方々にご協力を頂きました。

作業自体はスクーバエリアとスキンエリアに2分割。それぞれエントリー／エキジットの確認を専任者が実施。毎回ですが目の前で人員が揃った状態で申告をして貰うなど安全管理には重点を置きました。作業エリアを明示する為に、水面にオレンジのブイを設標、今年も中央にはA旗を掲示。昨年から実施されている藻場造成の土砂入りで水域の様子が異なり、水面監視班はブイ打ちの深さを測り乍らの区画設定で苦労があったとの事。

海に入るJUDFの監視ダイバーは基本的に3点で水面にて監視。規定エリアからの逸脱や緊急事態に即応できる状態で待機。水中でのトラブル対応としてスクーバ4セット（2バディ分）も水面と浜辺にスタンバイして相応体制で臨み、JUDFスタッフは他との識別の為にオレンジベストを着用、参加者ダイバーと監視要員の識別を実施しました。

参加ダイバー：スキンド이버はバディで交互に潜る方式で行い、スクーバダイバーはバディ毎にウキを付けたロープを引きながら潜り、水面からダイバーの位置が直ぐに確認できる様配慮。色々な管理方法を試した中で辿り着いた方式で、臨機応変で管理を実施。

海域の沖には海上保安部の作業許可の中に記載された「対船舶監視船」「監視PWC（水上オートバイ）」をそれぞれ1艇ずつ計2艇を配置、他船舶などの接近を防止しました。

（いわゆる警戒船業務の内容ですが、ボランティアでの作業許可として敢えて「警戒船」とせず、表記を「対船舶監視船」と変えて作業許可を得ています）

参加者数やゴミ回収実績等は下記の通りですが、今回の海浜ゴミ量は「燃えるゴミ袋数」が昨年の2倍でした。我々ダイバーが環境に貢献できる、目に見える活動として地元だけでなく一般の方々からの認知度も高い活動として注目を集めている事業でもあり、来年度も継続の予定です。重ねて皆様のご理解とご協力をお願い致します。

今回の行事が無事に終了できたのも、メンバーを始め多くの方のご協力があったのと実感しております。改めてメンバー取り纏めをして頂いた JUDF 事務局をはじめ、ご協力頂きました皆様に、主催者側担当責任者及び JUDF 担当者として篤く御礼申し上げます

報告者： 中村雅人 (一社) 全日本潜水連盟 担当理事
東京ベイお台場クリーンアップ大作戦実行委員会 副実行委員長

=====

■JUDF からの参加メンバー (順不同・敬称略)

横山 政昭、倉田 秀一、中島 則雄、米沢 秀記、田村 日出幸、野仲 忠幸、野仲 (佐々木) 道子、小山 敬之、小山 裕美、小山 雄己、新飯田 琉斗、山縣 浩隆、中村 雅人

■参加者数 (海底清掃部門)

一般参加者 36 名 (1 名欠席を除く) + JUDF スタッフ 13 名

参加者内訳／スキンド이버：6 名、スクーバダイバー：29 名、陸上支援：1 名

他に実行委員 8 名、船舶 3 名、財団関係、JUDF 等入れて海底清掃部門は合計 60 名

■参加ダイバーグループ (順不同)

東京港水中生物研究会、東京海洋大学潜水部、東京大学海洋調査探検部、海をつくる会、日本シニアダイバーズクラブ、稲取マリンスポーツセンター、SEA STORY、個人 (1 名)

■全体参加企業・団体数：20 団体 (潜水部門を除く)

参加人数：561 名 (海浜清掃部門参加者のみ。ダイバー含まず) ※対前年同月：80.2%

回収ゴミ量 海浜：264 Kg ※昨年 6/14：162 Kg

海底：59.8 Kg ※昨年 6/14：55.5 Kg ●今年合計：323.8 Kg

※次回は 11 月 7 日 (土) (海浜：陸上清掃のみ)、9 月期は熱中症対策の為に休会

■実行委員会等構成団体・組織

【実行委員】 (順不同) ※主催実行委員会構成団体

海上保安庁 東京海上保安部

一般社団法人 全日本潜水連盟

特定非営利活動法人 日本水中科学協会

一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会

一般社団法人 東京臨海副都心まちづくり協議会 ※

公益財団法人 日本海事科学振興財団 船の科学館

公益社団法人 関東小型船安全協会
公益社団法人 東京青年会議所港区委員会
公益社団法人 日本トリアスロン連合
デックス東京ビーチ
東京港埠頭株式会社
東京都港湾局 港湾経営部
東京都港湾局 東京港管理事務所
東京都島しょ農林水産総合センター
港区
港区青少年対策お台場地区委員会
港区立小中一貫教育校お台場学園港陽小・港陽中学校
港区立台場区民センター
公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団（事務局）

【協賛金団体】 （順不同）

一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会、お台場学園 PTA、お台場合同自治会
株式会社 ID ホールディングス、(株)ダイトコーポレーション、株式会社長門屋商店
THE TOWERS DAIBA 自治会、シーリアお台場五番街4号棟自治会、日本技研工業株式
会社、港区青少年対策お台場地区委員会、リコージャパン(株)

【協力】

エアステーション世田谷（エアータンク）

【後援】 （順不同）

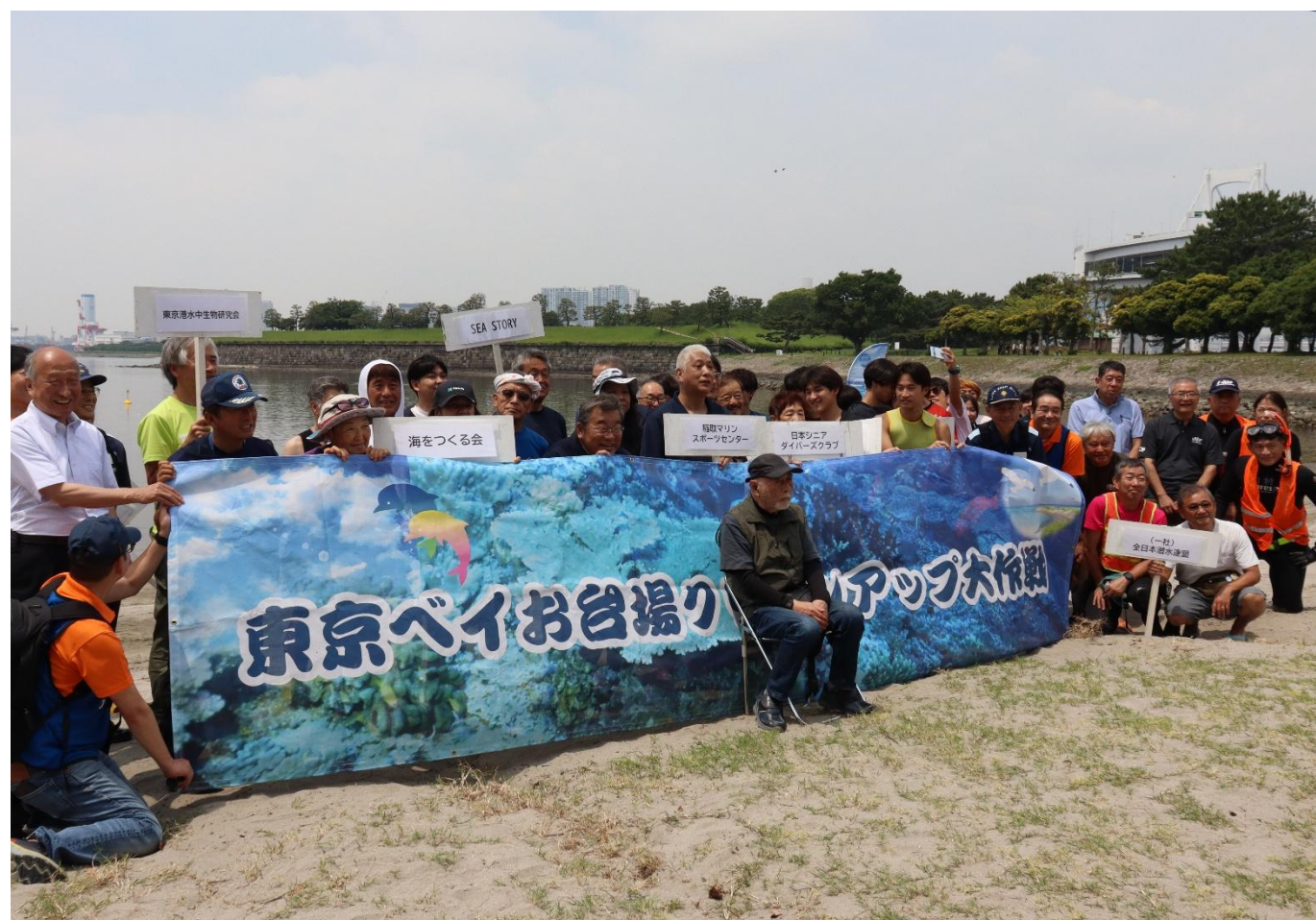
一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会
公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構

※【一社 東京臨海副都心まちづくり協議会】 協議会構成企業・団体等（順不同）

アクアシティお台場、有明センタービル、有明セントラルタワー、デックス東京ビーチ、
株式会社東京レポートセンター、株式会社東京ビッグサイト、株式会社東京臨海ホール
ディングス、株式会社乃村工藝社、株式会社フジテレビジョン、日本科学未来館株式会社
ゆりかもめ、船の科学館、がん研有明病院、グランドニッコー東京 台場、TOC 有明、
TOYOTA ARENA TOKYO、国立研究開発法人産業技術総合研究所臨海副都心センター、
コナミビジネスエクスパート株式会社、the SOHO、サントリーホールディングス株式会
社、ヒルトン東京お台場、相鉄グランドフレッサ 東京ベイ有明、武蔵野大学有明キャンパ
ス、台場ガーデンシティビル、ダイバーシティ東京 プラザ、ダブルツリーby ヒルトン東京
有明、地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター、東京国際交流館、東京ベイコ
ート倶楽部ホテル&スパリゾート、東京臨海高速鉄道株式会社、東京臨海熱供給株式会社、
トミンタワー台場一番街・トミンタワー台場三番街・トミンハイム三番街・トミンハイム
五番街、株式会社テレビ朝日、トレードピアお台場、日本科学未来館、森ビル株式会社、
BMW GROUP Tokyo Bay、



東京ベイお台場クリーンアップ大作戦 2026 【お台場海底清掃】全体記念撮影
この海底清掃をプロデュースし起ち上げた JUDF 元理事長須賀次郎さんを囲んで…



同じく全体での記念撮影 この角度だと JUDF の参加メンバーも写っています
JUDF メンバーはオレンジベスト着用。一番左の方は KISSPORT 財団：田中理事長



オープニングセレモニーの様子 来賓の東京海上保安部次長からのご挨拶と注意事項など



東京海上保安部・警備救難課長によるリードで、スタッフも全員参加の準備運動



オープニングセレモニー ご来賓と実行委員の皆様をご紹介します



本部で受付するスクーバ担当米沢さん、スキン担当横山さん、全体管理の倉田さん



スクーバ班とスキン班に分かれ、ブリーフィングで具体的な説明を受ける参加者
ダイバーブリーフィングからは JUDF 要員によりダイバーの管理・監視を実施する



エントリー前、まずバディチェックを終えた後、グループ内で更にチェックする
バルブ開放確認など全て終わってから、グループで纏まって入水のチェックを受ける



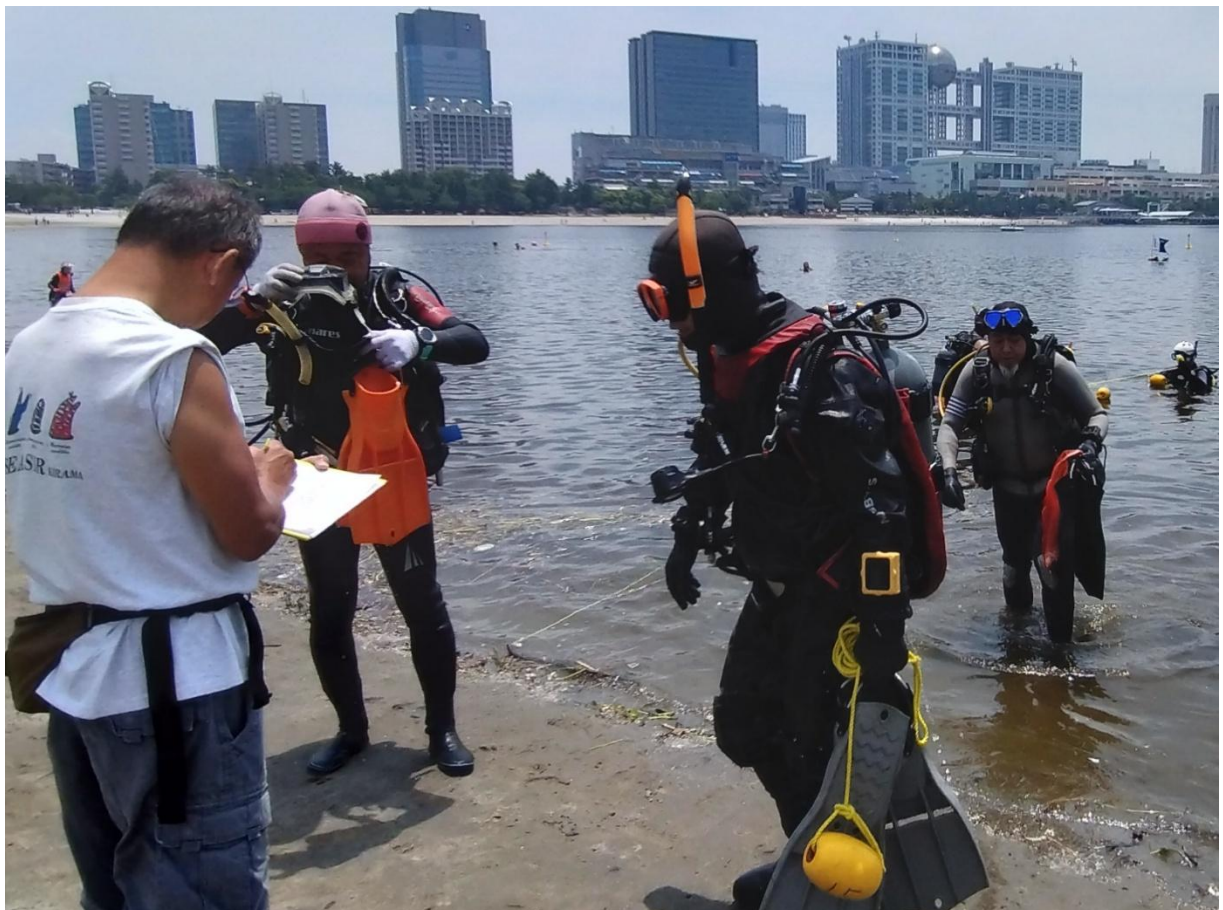
潜水作業中【A 旗】、沖で船舶警戒中の監視船、そして JUDF 監視スタッフと参加者
お台場はシーカヤックやウインド、SUP 等のマリンスポーツも盛んで警戒監視が重要



浜から即応する為のレスキューチューブ、予備スクーバセットもスタンバイ



許可された作業（清掃）区域へ進入する船舶やウインド・SUP などに対応する PWC（水上オートバイ）も配置、船は（公財）関東小型船安全協会／東京の協力にて実施



スクーバ班の入／出水確認：実際の人員／名前と名簿を照合してチェックする米沢氏



清掃を終え岸に向かう参加者。海水の状態は…見てお察しください（透視度…0？）
底質が細かい泥砂で、フィンの底が泥に吸盤のように吸付き、脱ぐのも大変です



普段使い慣れないブイ付ロープの水中取扱いとゴミ袋（玉ねぎ袋）の対応で試行錯誤



通常のスポーツダイビングでは使わないブイやロープ。低視界での水中のロープの取扱いなど、インストラクタークラスでもひと苦労。トレーニングにもなります…



回収したごみにはアマモ場造成時に使用されたと思われるネットも…（アマモなし）



31年前お台場海底清掃を総合プロデュースし起ち上げた、元 JUDF 理事長須賀次郎氏
数年前からはご自身では潜らないものの、必ず海の現場に。まだまだお元気です





炎天下の海底清掃後、撤収の途中で最後のひと頑張り…クロージングセレモニーに集合
この閉会式の後…皆様お待ちかねの「お弁当と飲み物」配布がありました



小山さんご家族グループ 海外赴任先から…多分このお台場に合わせて一時帰国中？



終了後の器材撤収と洗浄…JUDF 監視スタッフはオレンジベストを着用し識別



撤収の途中で JUDF メンバー集合 中島さんは主にタンク管理と陸上側監視を担当
(野仲様お二人がご不在のタイミングでした…すみません)